

被爆73年 連合2018 平和ナガサキ集会

～語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で 核兵器廃絶と恒久平和を実現しよう～

8月8日(水)15:30から長崎県立総合体育館・メインアリーナにおいて、「連合2018平和ナガサキ集会」を開催し、全国より3,360人の皆様が参加されました。



冒頭 連合長崎宮崎会長は「1945年8月9日、11時2分、この長崎の地に、1発の原子爆弾が投下されました。一瞬にして7万人を超える人が亡くなり、多くの苦しみ、悲しみをもたらしました。その一人ひとりには、人生があり、家族があり、未来があり、希望がありました。それを一瞬にして、奪い取ったのです。決して許されません。今日から始まる平和行動を通じて、見たり、聞いたり、感じたことを、ぜひ、それぞれの地域で、職場で、家庭で、共有して頂き、核兵器廃絶つまり、この地球上から最後の1発が無くなるまで、私たち一人ひとりが、自らができることを、行動していきましょう。」と挨拶されました。その後、連合 相原事務局長から、米朝会談、

核兵器禁止条約、NPT再検討会議などの世界情勢に触れ、「世界の核軍縮を進めるための世論形成において、唯一の戦争被爆国・日本が果たすべき役割は極めて大きいものと実感しています。その中でも、私たち労働組合や本日ご参加の平和団体の皆様が、国際的な運動をけん引していかなければなりません。本日の集会で、戦争について・平和について、知り、感じ、考える機会としていきましょう。」と主催者代表あいさつがありました。

来賓として、長崎県中村法道知事、長崎市田上富久市長、国際労働組合総連合(ITUC)マクブール・サハーン法制局長からそれぞれご挨拶をいただきました。



開会あいさつ
連合長崎 宮崎会長



主催者あいさつ
連合 相原事務局長



来賓あいさつ
中村長崎県知事



来賓あいさつ
田上長崎市長



来賓あいさつ
国際労働組合総連合(ITUC)
マクブール・サハーン法制局長

長崎平和推進協会継承部会の深堀譲治様からは、原爆により母・弟2人・妹1人を亡くした悲惨な戦争体験を語っていただき、このような悲劇を二度と繰り返してはいけないと訴えました。

その後、「核をめぐる最近の国際情勢：対立か、強調か」と題して、長崎大学核兵器廃絶研究センターの鈴木達治郎センター長の基調講演がありました。核兵器禁止条約やトランプ政権の核政策の現状等の説明の後、「核兵器は1発でも使われたらおしまい。古いものを新しいものに変えているだけ」と述べ、「核軍縮の実質的進展のための賢人会議」での取り組みをご説明いただきました。

平和広島代表团(代表：連合広島 久光 博智 会長)からピースメッセージ、「若者からのメッセージ」として、ナガサキ・ユース代表团、高校生平和大使から、それぞれの立場での報告と決意表明がありました。

青年委員会 本田博士委員長が「ナガサキからの平和アピール」を読み上げ、満場一致で確認されました。その後、次の平和行動の地である根室へ平和の思いを託し、連合長崎宮崎辰弥会長から連合北海道 荒木敏安副事務局長へピースフラッグリレーを行い、フィナーレとして「For The Peace Of World」を合唱し、平和ナガサキ集会を閉会しました



被爆者の訴え 深堀 譲治様



平和広島代表团



高校生平和大使



長崎大学核兵器廃絶研究センター 鈴木達治郎様



平和アピールを読み上げる
本田青年委員長



ピースフラッグリレー



フィナーレ For The Peace Of World

ナガサキからの平和アピール

7万4千人余りの尊い命が一瞬にして奪われたあの日から、73年経った。1945年8月9日、原子爆弾が投下され、長崎は一瞬にして焼け野原となった。今もなお放射能障害に苦しんでいる人たちがいる。それにも関わらず、核兵器は世界中に1万4,450発も存在し、私たち人類はその脅威から解放されていない。

本年6月12日、米国のトランプ大統領と、北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長による史上初の米朝首脳会談がシンガポールで行われた。2カ国の共同声明への署名は、非核化への足がかりとなるものである。しかし、核放棄の具体策や期限が明確化されなかった。引き続き国際的な努力のもと、着実かつ早急な非核化の実現が求められる。

昨年国連で採択された「核兵器禁止条約」に引き続き、核兵器廃絶に向けた世界的な機運は高まりつつある。しかし、日本政府は「国際社会の分断を一層深める」として、本条約に参加していない。今こそ、唯一の戦争被爆国としての主体的な役割を發揮すべきである。核兵器使用の犠牲者(Hibakusha=ヒバクシャ)の受け入れ難い苦しみの深刻さ、そして、核兵器の廃絶に向けて広島・長崎の被爆者がこれまで果たしてきた重要な役割を受け止め、対立する核兵器国と非核兵器国の橋渡し役として、各国にこれまで以上に強く働きかけることを要請する。

連合、原水禁、K A K K I Nの三団体は毎年、核兵器を保有する国の駐日外国公館に対して、「核兵器廃絶」に向けた要請行動を行っている。また、国内外で原爆写真ポスター展を開催し、核兵器の恐怖と非人道性を強く訴えている。そして「2015 N P T再検討会議」にあわせて、核兵器の廃絶を求めた署名に取り組み、集約した約720万筆の署名を国際連合および日本政府に提出した。

しかし、「2015 N P T再検討会議」は、核兵器国と非核兵器国の対立により最終文書が採択されないまま閉幕した。私たちは平和を願う世界市民と連帯し、なんとしてもN P T体制の崩壊を阻止しなければならない。次回、2020年に開催される「N P T再検討会議」に向けて、核兵器廃絶に向けた機運が世界中で高まっている今こそ、さらなる世論喚起と国際的な働きかけを強めていかなければならない。

私たちは平和首長会議や国際労働組合総連合(I T U C)はもとより、長崎大学、長崎外国語大学などの教育機関やN G Oとの連携を強化していく。あわせて、本日の集会参加者をはじめ、唯一の被爆国であるこの国に暮らす者、働く者、そして平和を願う世界中の全ての声と力を結集し、政府や国際社会へ示していく。

国内外での強く広い運動により、核兵器廃絶に向けた決意を改めて強固なものとし、核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現を目指していくことをここに宣言する。

2018年8月8日

「連合2018平和ナガサキ集会」

「ピースウォーク」

連合長崎青年委員会・女性委員会メンバーによる「ピースガイド」の案内で、原爆落下中心地公園・平和公園内の8箇所のモニュメント・碑巡りを行いました。全国から約500名の方に参加いただきました。



万灯流し

8月9日(木) 19時から、原爆殉難者慰霊奉賛会、城山連合自治会と連携し、原爆犠牲者のめい福を祈る万灯流しを行いました。全国から参加した組合員・家族等が万灯に平和へのメッセージを書き込み、浦上川に流し殉難者を弔いました。



連合長崎 平和キャラバン隊 出発式

日本は世界で唯一の被爆国であり、広島と長崎から恒久平和を願い、8月5～6日に広島で開催される「連合2018平和行動in広島」へ平和キャラバン隊を編成し、街宣行動を展開しています。このキャラバン隊の出発式を8月3日(金)の12時20分から長崎県庁前で、12時40分から長崎市役所前で行いました。



県庁前にて 宮崎会長激励



市役所前にて 田上市長激励

2018連合長崎 キャラバン隊メンバー

- 梅津 翔馬
(青年委員会・JR連合)
- 澤井 知博
(青年委員会・UAゼンセン)
- 高田 美穂
(女性委員会・日教組)
- 古賀 美紀
(日教組)
- 鴨川 博明
(連合長崎)

平和の泉清掃

7月21日(土)、平和の泉の清掃を実施しました。暑い中の行動となりましたが、組合員の家族も含め75名の方が参加しました。

平和の泉は、1969年、KAKKIN(旧：核禁会議)の呼びかけによる国民カンパにより建設し、長崎市に寄贈しました。清掃は、以前はKAKKINが実施していたものを、1999年より連合長崎が引き継いで毎年実施しており、今年で20回目となりました。

参加者は、73年前の悲惨な状況に想いを馳せながら、平和の願いを込め、デッキブラシやたわしを使い、平和の泉の中のコケなどの汚れを落としました。また、泉の中のお賽銭も拾い集めました。このお賽銭は、きれいに洗い流し、後日原爆資料館へ納めています。



万灯作成

7月28日(土)、長崎電気ビルにて「万灯作成」を実施し、組合員・家族の皆様、約80人が参加しました。

この万灯作成の時には毎年、被爆体験講話があります。三瀬清一郎様は、10歳の時に被爆。自分が通っていた学校が救護所となり、救護が間に合わず次々と亡くなっていく人々が校庭で焼かれる様を嫌というほど見せられた体験を話され、戦争の悲惨さ・惨めさを訴えました。「平和とは何か」と改めて考える講話でした。

その後、300個の万灯を作成。今年は、長崎市に献納された折り鶴を解体・仕分けし、リサイクルをしてもらうボランティア活動も実施しました。



講話いただいた
三瀬清一郎様



連合2018平和行動in広島

8月4日(土)～6日(月)に開催された「平和行動in広島」には、連合長崎から高藤事務局長以下15人が参加しました。

4日(土)は現地で結団式を行い、5日(日)には、「原爆資料館の見学」「ピースウォーク」「連合2018平和ヒロシマ集会」へ参加しました。集会では箕牧智之様の被爆体験証言をお聞きし、被爆被害の悲惨さをあらためて感じました。後段は高校生平和大使から決意表明、連合長崎 高藤事務局長からのピースメッセージ、平和アピール採択がありました。最終日の6日(月)は「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式(広島市主催)」と連合長崎が連合広島に1995年に寄贈した「平和の鐘打鐘式」に参加しました。



ピースフラッグ(広島から長崎へ)



「平和の鐘」打鐘式にて



広島でのピースウォーク



折り鶴を献納しました



広島への派遣団とキャラバン隊

「2018年度政策・制度に関する要求書」を長崎県知事に提出

8月22日、連合長崎は長崎県に対して「政策・制度要求書」を提出しました。要求項目は17分野45項目になります。重点項目として、「働き方改革」「投票率向上に向けた施策」「観光対策」の3つについて説明し、県知事と県選挙管理委員長から回答を受けました。正式な回答は後日、文書にていただきます。働く立場からの要求を挙げて、少しでも住みよい働きやすい長崎県を実現していきます。



【2018年度政策・制度に関する要求：重点項目】

1. 働き方改革に関する施策

雇用・労働政策

- ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、以下の施策を推進すること。
 - (1)週休2日制の導入促進や有給休暇の計画的な取得を推進する施策を講じるなど、総実労働時間短縮に向け、引き続き施策の推進をはかること。
 - (2)長時間労働の是正、労働者の健康・安全確保のために、「休息时间(勤務間インターバル)規制」等について周知徹底並びに、職場意識改善助成金(勤務間インターバル導入コース)の活用などの啓蒙をはかること。

教育政策

- 教職員がゆとりと生きがいを持って教育にあたり、子どもと向き合う時間を確保して、ひいては教育の質を高めていけるように、教育現場の長時間労働を是正すること。特に勤務時間を適正に把握して、労働時間の上限規制を設けること

2. 投票率向上に向けた施策

政治政策

- 投票率の向上に向け、市町選挙管理委員会等と連携し、以下の施策を行うこと。
 - (1)若年層を中心に実効性のある啓発活動を行うこと。
 - (2)市町選挙管理委員会と連携し、(期日前)投票所の利便性向上をはかること。
 - (3)投票済証明書の発行を促進すること。

3. 観光対策

都市計画・住宅政策

- 個人の住宅を宿泊施設とする「民泊サービス」にあたっては、生活者や利用者の安全・安心を確保することが重要である。今年6月から施行された「住宅宿泊事業法施行要領(ガイドライン)」に基づき必要な対策を行うこと。

地域政策

- 外国人観光客の急増に伴い、関係自治体と連携し受け入れ体制の整備・強化を行うこと。
 - (1)観光バス等大型車両の駐車場・乗降場の拡大をはかること。
 - (2)住民とのトラブル防止に向け、旅行会社等への指導を強化すること。



2018年度長崎県最低賃金

762円^{+25円}で結審!

8月10日第3回長崎地方最低賃金審議会が開催され、2018年度長崎地方最低賃金が結審しました。5回にわたる専門分科会を開催するなかで、労働側は目安(23円)+2円を最後まで主張しましたが、使用者側主張と金額の一致には至りませんでした。最終的に公益見解として目安+2円の25円の引き上げが示され、公・労側委員賛成、使側委員反対で採決され結審し、長崎労働局長へ答申しました。長崎県の最低賃金は10月6日から+25円の762円になります

2018年
10月6日から
長崎県の
最低賃金は
762円
になります!



NEWS

最低賃金

広報セミナーのお知らせ

昨年も開催しました「広報セミナー」。今年も開催します!広報を通じて、組合の活動を知ってもらい、組織強化につなげましょう。今年は、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)をテーマにしたセミナーです。SNS初心者も大歓迎!まずはSNSって何?ということから初めてみませんか?たくさんの参加をお待ちしております。

日 時 2018年9月29日(土) 14:00~17:30

場 所 長崎市民会館 1階 大会議室(長崎市魚の町5-1)

テ マ SNSを活用した広報活動について

講 師 連合本部 広報局 西野ゆかり局長 ほか

対 象 者 構成組織の単産・単組及び地協の広報担当者

参 加 費 無料

そ の 他 終了後懇親会を予定しております。(懇親会費3000円)

お申込み 開催の告知文書は各構成組織・各地協に送付しておりますので、各構成組織・地協を経由してお申込みください。(締切:9月19日)

